

なぜシール帳は透明になったのか

行村 心

指導教員 朝岡 孝平

研究背景

平成レトロブームの一環で2024年から全国的に流行したシール交換は、令和独特のテイストを見せている。それはシール帳の表紙となるバインダーやリフィルが透明であることだ。この透明のシール帳は、平成期のシール帳とは大きく外見が異なっている。そしてこの透明のシール帳は令和期のシール帳ブームの象徴的存在となっており、2026年現在でも多くの人々がシール帳を作成し、シール交換を行っている。

研究目的

成人女性がなぜシール帳を透明のシール帳という形で再消費するのかを、透明シール帳のテイストが形成された経緯という視点での解明を目指す。

研究方法

本研究はテイストを支えるテイストレジームという理論的枠組みを採用する。テイストレジームが形成されるためのテイストの意味や行為、また透明シール帳のテイストレジームの問題化・儀式化・手段化のプロセスを明らかにするために半構造型インタビューを行う。回答者は透明のシール帳を作成している成人女性の方々である。インタビューは一對一の対面式あるいはzoomのオンライン通話で実施した。

分析結果

インタビューにより、透明のシール帳のテイストレジームを形成している個人のプロセスが明らかになった。回答者はシール交換やシール帳を作成して眺める行為によって、他者とのコミュニケーションを取りながらノスタルジアの共有を行ったり、また自身のコンディションを高めたりする意味を実現していて、実践のための儀式化、手段を行為に関連したプロセスにより行っていた。

考察・結論

透明シール帳が流行している理由は、「コミュニケーション」「自身のコンディションを高める」という意味を実現するための実践が行われていたからであった。平成期のシールブームを経て今大人に成長した者たちが各々の実践により意味を実現することで、大人ならではの消費の形が生まれて実践の集合体となり、令和期のシールブームが形成されていた。